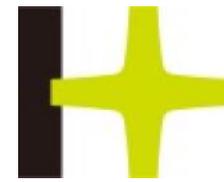




北陸大学 高等教育推進センター
Center for the Advancement of Higher Education



21世紀を生き抜くチカラ。
北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

主体的な学びの場を形成するための FDの役割

2021.9.17

東京工業大学LPG オンライン学修環境シンポジウム・話題提供

杉森 公一 Kimikazu SUGIMORI

北陸大学 高等教育推進センター センター長・教授
Center for the Advancement of Higher Education (CAHE),
Hokuriku University. CV: <https://bit.ly/ksugimori>

いま私たちの「主体性」をとらえなおす

2020年～を振り返って

緊急遠隔授業（デジタル化、オンライン化）がもたらしたもの

* 大学教職員

- ・史上空前の、FD研修への参加者数を経験
- ・テクノロジーと授業づくりが密接になり、ほぼ全員がLMS・ビデオ会議のツールを使うことを与儀なくされた

* 大学教職員と学生

- ・対面の価値が稀有なものとなり、一斉に孤立した
- ・対面授業の価値が問い直された

授業、学生生活、課外活動、教育・研究に関わるすべての課題が顕在化 (actualized) し、可視化 (visualized) された

優れた授業実践のための7原則

- Chickering & Gamson (1987) – 米国大学の教義 “Seven principles for good practice”
 - 1) 学生と教員のコンタクトを促す
 - 2) 学生間の相互関係と協力する機会を増やす
 - 3) アクティブラーニングの手法を利用する
 - 4) 迅速にフィードバックする
 - 5) 学習に要する時間の大切さを強調する
 - 6) 学生に期待の高さを伝える
 - 7) 多様な才能と学習方法を尊重する

東京工業大学 学びの7か条

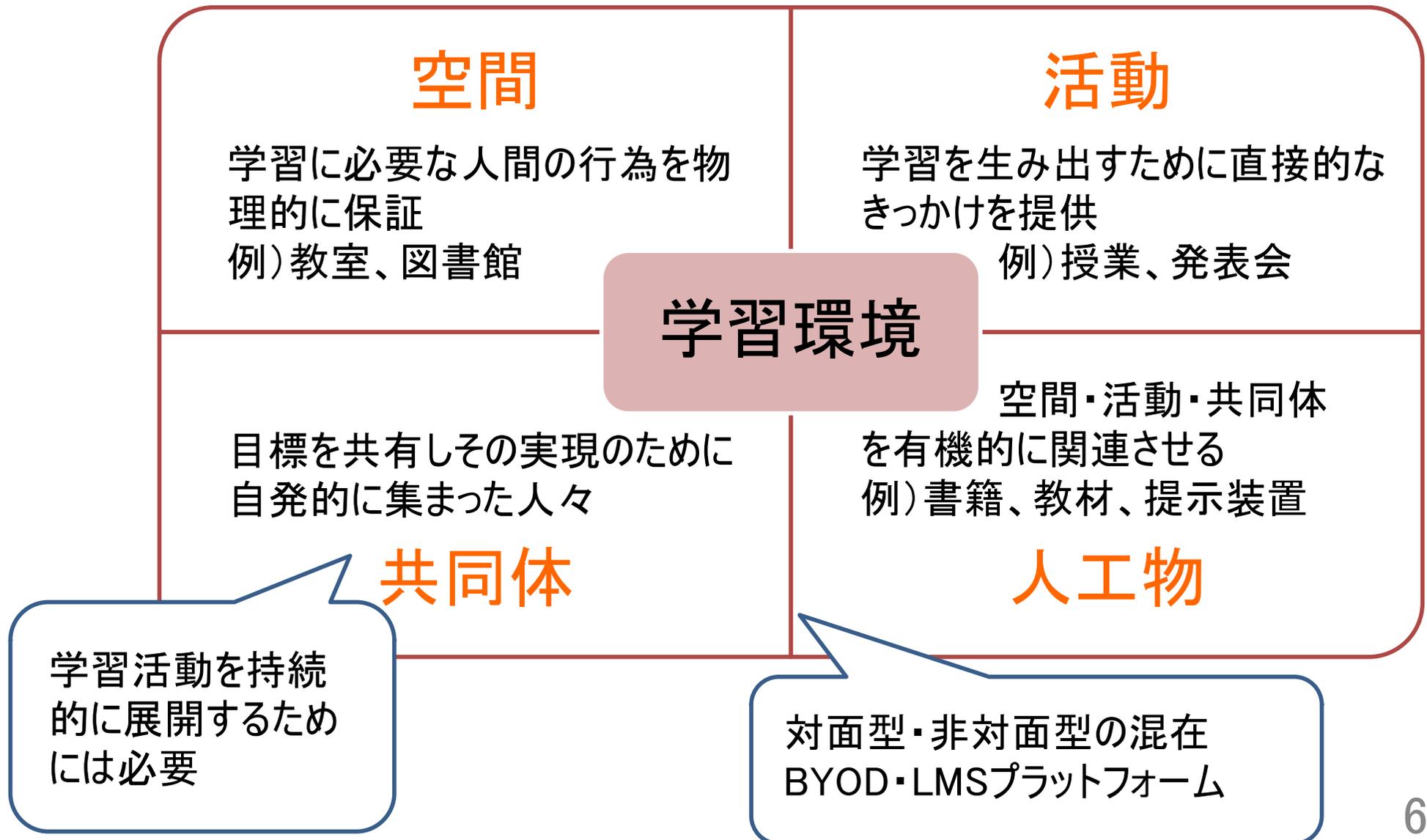
—自ら学び続ける力を身につけるために—

「・・・社会に出れば、自分で考え、学ばなくてはならない」

1. いろいろな教員と積極的に接する
2. 学生間の協力関係を築く
3. 自立的に学習する
4. 学習の進捗を常に把握する
5. 授業外の学習を計画的に行う
6. 高い志をもって行動する
7. それぞれの個性と個々の学びを大切にする

あらためて「学習環境」とは？

- 学習環境の要素（山内ほか、2010）



これまでの対面型学習環境の整備

➤ 空間／物理的環境

- － 図書館 ラーニング・コモンズ
- － 講義棟 AL教室



➤ 共同体／人的環境

- － 教職員
- － 学生 (学生による学生の学修・学習支援)
TA・SA (授業、附属図書館、自学自習支援)



⇒ 非対面型に伴うペダゴジー(教育技法)の変化

- Teaching with Technology

- 学習者を中心とした活動への関与に焦点をあてる
(学生エンゲージメント)
- 対面とオンラインツールを有効に組み合わせた授業設計
(反転授業、オンデマンド、ハイブリッド)

- Learning with Technology

- 多様な学習形態を、学生が選択できる学習設計
(ユニバーサル・アクセス、ハイフレックス)
- 人・空間・共同体の学習環境を整える
- オンラインTA・SA、チューターの育成

コロナ以前にも、「クラス内反転学習」の事例として

- 看護4年生「地域アセスメント技術演習」
- 40本以上の解説ビデオを収録・配信
(スマートフォン・PCから、LMSへアクセス)
 - ジグソー法・ポスターツアーによる協同学習
 - 演習中に、教員はもはや講義をしない = その場で視聴
 - グループの仲間、
TA・SA・教員の助言
- LMS、オンライン学習は一部では根付いていた



⇒ 遠隔授業 × 同期型PBL × TA・SA

授業例：医・看護の他職種連携教育 200名での大規模PBL

ビデオ会議システム + LMS + TA・SA

- ・チャット、クリッカー（小テスト投票）での双方向のやりとり
- ・ビデオ会議システムの併用

- ・LMSの活用
 - スレッド型掲示板
 - グループごとのビデオ会議システム

- ・映像資料
- ・多様なデータの提示
- ・グループでのPBL（Googleドキュメントの同時・共同編集）

- ・ビデオ会議システムでのオンラインジグソーグループ
- ・オンラインプレゼンテーション（Googleスライド）

教室で対面で行っていた様々なアクティブラーニング



「混ぜる」

オンラインからの発言

→

[iPad + スピーカーフォン]

← 教室内討論



⇒ FD研修、TA・SA研修のオンデマンド化

- 同期型研修を補う「非対面化」
 - 授業設計のためのFD研修の緊急開催（年15回、のべ1000名）
 - オンデマンド録画・教材へのアクセス数 年8500回
 - オンデマンド教材による学部生TA・SA研修
 - 学修支援も、LMSを通じたオンライン支援を可能とした
 - 図書館TA・SAのオンライン対応



⇒ 図書館ラーニング・サポートのオンライン化

- ① ライティングセンター
- ② 学修相談
- ③ ライブラリー・ラーニング・アドバイザー
About LILA
- ④ アカデミック・アドバイザー
Academic Advisor
- ⑤ 大学での学びの基本
Basics of Learning at University
- ⑥ 調べ方・学び方ガイド
How to Research and Learn
- LiLA Twitter
- LINK
- ⑦ アカサス・ポータル
- ⑧ 学術メディア創成センター
- ⑨ 資料館
- ⑩ ヴァーチャル・ミュージアム

学修相談



附属図書館では、ライブラリー・ラーニング・アドバイザー(LILA)とアカデミック・アドバイザー(AA) 教員による学修相談を行っています。
 「実施場所・時間」を確認し、直接図書館にお越しください。
オンラインでも相談可能です。
 #急遽予定を変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

LMSを通じたオンライン学修支援

オンライン学修支援 (附属図書館) Online Learning Support by University Library

相談できる内容

- ・ 日常の勉強法
- ・ レポートや論文の書き方
- ・ プレゼンテーションの方法
- ・ 日本語、英語、中国語などの文章チェック
※翻訳は相談対象外
- ・ 気軽に英会話
- ・ 語学の学習相談
- ・ 図書館の利用方法
- ・ 理系基礎科目などについての相談

教材

成績・ 修学カルテ・ その他・ コース・

タイムライン

2021年度の学修相談は4月12日(月)からスタートします。

The 2021 Learning Support will start on April 12th (Monday).

学修に関する相談のある方は、附属図書館で活動している、ライブラリー・ラーニング・アドバイザー(LILA)とアカデミック・アドバイザー(AA)に相談することができます。右の画像の中の「相談の申し込みはこちら」から申し込んでください。

LILA,AAの活動については次のページをご覧ください。
https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=19279

2020/09/24

* さらに過去の記録を閲覧

実施場所・時間

休学期間中(インターバルを含む)以外の次の時間帯に行っています。

ライブラリー・ラーニング・アドバイザー(LILA)

@中央図書館ボラリススタジオ → [\[オンライン相談はこちら\]](#)

授業の予習復習・自学自習など、皆さんの学習・研究に関する相談を主に日本語で対時間割の対応可能科目や言語を参照し、時間内に相談してください。

言語	3(13:15-14:45)	4(15:00-16:30)
月 日本語	学習全般	学習全般

オンライン学習相談 Online Learning Consultation

中央図書館LILA(日本人学生担当)・AAへの相談はこちら [Apply to Central Library LILA Japanese students - AA \(ZOOM利用\)](#)

アンケート
利用可能期間 2021/05/18 12:37 - 2022/05/18 12:37

中央図書館LILA(留学生担当)への相談はこちら [Apply to Central Library LILA for International students \(ZOOM利用\)](#)

レポート (成績非公開)
利用可能期間 2021/05/18 12:37 - 2022/05/18 12:37

自然科学系図書館LILAへの相談はこちら [Apply to NST LILA \(ZOOM利用\)](#)

レポート (成績非公開)
利用可能期間 2021/05/18 12:37 - 2022/05/18 12:37

オンライン・セミナー Online seminar

[図書館の利用方法、本・雑誌論文の探し方 How to use the library and how to search or books and journals in KU](#)
資料

[大学図書館を使った学術情報の探し方](#)
資料

[レポート作成基礎講座 How to write academic reports](#)
資料

[オンライン百科事典を使って研究テーマを決めよう](#)
資料

⇒ ハイブリッド実習試験

- 医学教育、客観的臨床能力試験 (OSCE)

- 附属病院での実施、感染予防のために模擬患者・評価者・受験者を別室に
- Zoomブレイクアウト・セッションを 20～40
- オンライン試験室・配信スタジオの設営



点在する実践をつなぎ結ぶ「7つの原理」



非対面型大学を支えるには

- 新しい時代に、新しい原理 (principle) のもとで、学習環境 (空間・活動・共同体・人工物) を再構築し、創出する必要がある
- 北米型の Teaching / Learning with Technology は、実は、多数の FD 専門家 (教育開発者)・インストラクショナルデザイナー・アカデミックアドバイザー・学修支援者などの専門職を必要としているが、本邦では専門部署・学修支援室を置かない場合には、どこまでを教職員が担えるか??

FDの役割

- 大学の役割の再定義
 - 学生の学びを中心にすえる
- 教員・学生の教育学修設計・支援への再焦点化
 - オンデマンド、オンライン、ブレンド、ハイフレックス
- 学習環境の再構築を支える、専門職・担い手の再役割分化
 - TA・SA、教材作成支援、学生相談
 - LMSプラットフォーム、学習分析(LA)
- ハードウェア < ソフトウェア < ヒューマンウェア
 - 授業設計・教材設計・学習設計にかかる教員コミュニティの形成

Beyond the LMS

「デジタル時代の教育学」(digital pedagogy) → データやテクノロジーを理解すると同様に、人間の知性とリテラシーを涵養する教育の在り方に改めて焦点を当てること

“デジタル・ペダゴジーとは、正しくはデジタル・テクノロジーを使って教えることではなく、むしろ批判的教育学の視点からデジタル・ツールにアプローチすることにある。つまり、ツールを熟考して使うことと同じくらい、ツールを使わないと決めること、ツールが学習に与える影響に注意を払うことが重要である。”

cf. “Hybrid Pedagogy” <https://hybridpedagogy.org/tag/what-is-digital-pedagogy/>

cf. “Human Literacy” in *Robot-Proof: Higher Education in the Age of Artificial Intelligence* (Joseph E. Aoun, MIT press 2017, 森北出版 2020)

“LMS(学習管理システム)の発明は間違いでした。ここで私は、これまで何度も繰り返されてきた、LMSは制限的な構造であり、LMSのインターフェースや機能が教師のオンラインでの教え方を支配している、というような苛立たしい議論をするつもりはありません。LMSは時期尚早だったからこそその失敗だったのです。”

S. M. Morris (2018), “Beyond the LMS”, in *An Urgency of Teachers* p.25–29

プラットフォーム(LMS)と学習分析(LA)への問い

私たちが、それは「主体的な」学びだ、と言った瞬間に、それは抑圧的な構造のなかで、「押し付けられた」学び＝客体的な学びに陥る

プラットフォームは、学習環境の一部だがすべてではない
分析は、過去の一側面を明らかにするが未来はつukらない

教育開発では、あらゆるツールの背景にある、教育上の願い(祈り)を実現するための、私たち自身の主体性を問いなおす

⇒ LMSを通じた教育と学習にとどまらず、「常に学び続ける姿勢と行動」＝自立的学習者としての心構えや能力、学びの気概を育てる、教育機関の気概もまた問われている

参考文献

- 山内祐平(2010)『学びの空間が大学を変える』ポイックス
- 杉森公一(2021)「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究」大学教育学会誌43(1), 93-94
- 河内真美・杉森公一・上畠洋佑「アクティブ・ラーニング型授業における学修支援を通じたアドバイザー学生の学び」高等教育ジャーナル24, 39-50
- 杉森公一(2020)「遠隔授業がつなく大学の学びのリ・デザインーデジタル・ペダゴジーへ、第23回関西大学FDフォーラム <http://doi.org/10.24517/00059631>
- 根岸千悠・田尾俊輔訳、佐藤浩章・杉森公一監訳(2020)「秋学期以降の15のシナリオ」大阪大学
- ホーン他・小松健司訳(2017)『ブレンディッド・ラーニングの衝撃』教育開発研究所
- 2020年代の大学は何を教えるのか？ 『ROBOT-PROOF』(ジョセフ・E・アウン著、1月刊行) 訳者解説 <https://note.com/morikita/n/nec873a5b0b33>
- 杉森公一(2016)「大学教師と学生を繋ぎ、結ぶアクティブ・ラーニングー大学での実践事例から」化学と教育, 64(7), 328-331 <http://ci.nii.ac.jp/naid/40020918978>
- S. M. Morris & J. Stommel (2018) “An Urgency of Teachers: the Work of Critical Digital Pedagogy” <https://urgencyofteachers.com/>